



2011 年 3 月発行 NO. 10

《編集・連絡先》

広島市地球温暖化対策地域協議会

[事務局] 広島市環境局

エネルギー・温暖化対策部企画課

広島市中区国泰寺町一丁目 6 番 34 号

TEL 082-504-2185

FAX 082-504-2229

E-mail: ondanka-t@city.hiroshima.jp

**エコレシピ・オーディションで審査員特別賞受賞
～事業名は eco ちゃり都市ひろしま実現事業～**

1 月 29 日(土)、広島県情報プラザで開かれたエコレシピ・オーディションには、県下各地から 15 チームが参加して、自慢の「エコレシピ」のプレゼンテーションを行った。

当協議会からは、eco ちゃり WG のメンバーを中心として、CO₂ 削減のため、何とかして移動手段をクルマから自転車(ちゃり)にシフトさせるためのレシピを紹介した。

グランプリは、脱温暖化プロジェクトせらの「ちゃんちゃんこでぽかぽかせら」が受賞したが、当協議会のレシピは審査員の方々からの評価を得て、「審査員特別賞」を受賞した。

レシピの具体的な内容は、スーパーの買物客に対するアンケート及び護国神社での初詣客に対するアンケートの実施、チョコ駐の実験やコミュニティサイクルの調査、自転車によるまちづくりを目指す建設コンサルタント協会及びチームメイトひろしまとのコラボなどこれまでの活動内容をとりまとめたものであった。

eco ちゃり都市ひろしま実現事業は活動を開始してからまだ日



が浅く、今年度は準備期間としての位置付けであったが、今後の活動はトライ＆エラー方式で内容を充実していく予定である。

1～3月の活動報告

○家庭・消費者 WG:

1 月 23 日 東区早稲田神社

1 月 30 日 東区牛田早稲田公民館 冬まつり

2 月 6 日 東区出合い・ふれ合いフェスティバル

2 月 14 日 西区草津公民館

2 月 17 日 安佐北区可部公民館

3 月 19 日 東区温品福祉センター

110 万人のエコ講座とのコラボで省エネ診断を実施

○イベント WG:

2 月 9 日 来年度の「温暖化ストップ!フェア in ひろしま」に向けて検討を始める

○eco ちゃり WG:

1 月 2 日・4 日 広島市護国神社で初詣アンケート実施(120 名)

1 月 13 日 ヴェスタ庚午店でショッピングアンケート実施(100 名)

1 月 28 日 eco ちゃり談義参加

1 月 29 日 エコレシピ・オーディションで発表し、審査員特別賞を受賞(左欄参照)

○事業 WG:

1 月 24 日 省エネ電球キャンペーンの第 1 回抽選会を実施

2 月 5 日・6 日 低炭素地域づくり全国フォーラムで省エネ電球キャンペーンの事業を紹介
低炭素杯(ストップ温暖化大賞)の優秀賞受賞

2 月 23 日 事業所の省エネ診断 診断員による訪問アドバイスの実施

○教育・学習 WG:

3 月 26 日 高校生と検討を重ねてきた「エコカルタ」が完成

2011年4月の活動予定

皆さんの積極的な参加をお願いします。

○推進員ミーティング: 4月6日10時から
推進員の意見交換を行います。今回は、松生さんから「アマゾンの自然とインディオの生活」について、話をしてもらいます。

○イベントWG: 4月13日10時から
“環境の日ひろしま”と平成23年の“温暖化ストップ! フェア in ひろしま”準備打ち合わせ

○eco ちゃりWG: 4月13日13時から
22年度の活動報告書のまとめと「提言書」の検討

活動報告詳細レポート

eco ちゃり談義

「エコレシビ」フェスタ」1日目の1月28日、自転車の利用促進により、自家用車の利用を抑え、CO₂の排出削減を目指す広島市地球温暖化対策地域協議会による「eco ちゃり談義」が開催された。同協議会の会員4人がパネリストとなり、自転車利用促進の意義やこれまでの取り組みなどについて発表した。

スーパーの買い物客約200人に調査したアンケート結果の発表や、「まちなかに手軽な駐輪場(チョコ駐)が必要」と題し、シンプルな駐輪器具の広島での設置可能性を検討した活動報告がなされた。

自転車都市実現の目指すべき方向として、「1,000人が1,000台の自転車を所有するよりも、1,000人で100台を共有する社会」にむけた環境整備などの必要性が提案された。

これらの発表の後、会場が一体となった“談義”が行われ、「“チョコ駐”できる企業や商店の参加を募り、



自転車にやさしい店マップを配布してみてもいい」といった意見が出された。また、その実現には県内各地の地球温暖化対策地域協議会どうしの連携が不可欠ことが示されるなど、談義は大いに盛り上がった。

(脱温暖化センターひろしま 馬場田)

枝廣淳子さんの講演を聴講して

(平成22年10月31日(日)於フレドホール)

枝廣淳子さんの名前は、ゴア前米副大統領の「不都合な真実」の訳者としては知っていたが、直接話を聞くのは初めてであった。

彼女を寸評すると、「21世紀型ライフスタイルの伝道師」と言ったところだろうか。

彼女の話をおよそ5段論法で強引にまとめてみると、次のようになる。

①地球は、人間の諸活動の結果として排出されるCO₂を海洋と森林で吸収してきた。

②年間のCO₂排出量と吸収量とが、ほぼ同量になったのは1980年頃。

③人間活動量の急激な増大や人口増に伴い、今や地球1.4個がないと、全CO₂の吸収ができなくなっている。(※エコロジカルフットプリント:EF)

*EF 地球の環境容量を表す指標

④このままでは、地球温暖化・異常気象がますます進み、取り返しのできない事態に陥ることになる。

⑤温暖化は「問題」ではなく「症状」だ。今や、人間の活動そのものを見直す必要がある。

また、地球温暖化は多くの問題が同時に出てくることも指摘された。

例えば、生物多様性、化石燃料の枯渇、エネルギー価格の上昇、食糧価格の高騰など。

そして、今後のあり方をいくつかの視点から紹介された。

まず、これまでの延長線上で見るだけでなく、検討上の制約を外してあるべき姿を描く手法「バックカスティング法」の採用と、視野を広く取ることの必要性を強調された。

次いで「3脱の時代」の話。3脱とは①暮らしの脱所有化(車、本、住宅など)②幸せの脱物質化(幸せの多様化)③人生の脱貨幣化(本当に自

分がやりたいことの追及)である。

最後の、「思い込みから自由になって、軽やかに生きていこう」という言葉は印象的だった。

如何でしょうか。機会があったら、是非一度枝廣淳子さんご本人からの話を直接聞いて頂けると、感動すること請け合いです。(檜山)

(枝廣淳子さんの図書紹介)

アル・ゴア/著の翻訳された本「不都合な真実」が有名ですが、他にも環境に関する著作や翻訳された多くの蔵書が市立図書館などにあります。

図書館の利用もひとつのエコ。公共施設を有効に活用して、省エネ知識の充実も図りましょう。



平成22年度エコ川柳作品の紹介

2010 温暖化ストップ! フェア in ひろしまの会場でエコ川柳の入選作品表彰式を開催しました。

エコ川柳は、今回で 8 回目を迎え、今年度は621名からの応募がありました。選者には、今回もエコ川柳の命名者である福岡義隆先生(立正大学名誉教授、広島大学名誉教授)にお願いしました。

入選作品は、大賞1句・優秀賞3句・選者賞3句・努力賞13句で、あわせて20句になります。

この入選された作品の中から4句を紹介します。

大賞 お水はね エンピツの太さ 孫の声
優秀賞 省エネは 地球の汗を 拭くタオル
優秀賞 クールビズ 上着を脱いで 笑顔着る
優秀賞 片方の 天秤いつも エコを乗せ



草の根省エネ診断事業

「CO2削減実践のスペシャリスト養成講座 エコフォワード8研」を受講した会員を中心として、地域のイベントの時に省エネ診断を実施してきましたが、今回新たに地域と一層密着した形で活動をしようと、草の根診断事業に取り組んでいます。

具体的には、110万人のエコ講座と連携して、省エネ診断では、講座に参加された方に省エネ診断の手順や診断した事例紹介などを行った後に、希望者に対して診断を行うという方法で、わかりやすく時間をかけてエコライフのアドバイスなどをしております。

戸建住宅でガスと電気を併用して使っておられる家庭の事例を紹介するためのデータを手入れしたいと思っておりますので、会員の方の協力をお願いします。

また、会員の方で省エネ診断をしていただける方を募っておりますので、省エネ診断事業に参加希望の方は事務局まで連絡ください。診断経験のない会員の方には指導いたします。

新規推進員の誕生と活動テーマ

協議会から3チーム(6名)が22年度地球温暖化防止活動推進員新規養成研修に参加。実践活動を修了し、広島県知事からの委嘱状を受けて、推進員の仲間入りをしました。

実践活動名

『「地産地消でCO₂削減キャンペーン」事前お知らせ事業』

塩野 猛、 一原 稔

内容:生協ひろしまのコープ委員会等に省エネ診断を含む学習の提案をおこない、3月のキャンペーンに繋げる

「地域活動拠点作りのためのモデル事業」

新宮原 充、 山本 省二

内容:二葉公民館への出前省エネ診断を手始めとして、東区の公民館から活動を展開へ

「まちなかに“手軽な無料駐輪場の実現”のための実験 ～パート1～」

平岡 伸、 松生 由紀子

内容:都心部の駐輪実態を調査し、手軽に設置できる駐輪具“チョコ駐”を試作し提案

省エネワンポイントアドバイス(3)

買い物は自転車で

広島市地球温暖化対策地域協議会のアンケート調査によりますと、スーパーから徒歩 10 分圏内は徒歩で買い物をする人が多く、徒歩 10 分から 30 分圏内は自転車で買い物をする人が多くなる傾向にあります。

徒歩 30 分の距離を2km としますと、自家用車(燃費 10km/L)で 1 週間に 3 回買い物をする、1 年で 60 リットルのガソリンを消費することになります。排出される CO₂ の量は 139kg-CO₂/年となり、家庭からの年間 CO₂ 排出量の2%になります。

2%はわずかな量ではありますが、その効果には大きなものがあると考えます。例えば

- ① 移動手段に関する意識を自動車から自転車に切り替えることによって、2%以上の効果が期待できること
- ② スローライフの習慣が身に着き、かつ街の細かなところまで目が行き、心豊かになること



- ③ 健康上のメリットが大きいことなどが考えられます。

ライフスタイルの中に「自転車」を取り入れてみませんか。

広島市からのお知らせ

市民参加のCO₂排出量取引制度の

実施結果について

「市民参加のCO₂排出量取引制度」は家庭における排出量の削減取組をこれまで以上に進めること等を目的に今年度から試行的に実施している制度です。

参加者(約1,000人)に11月分と12月分の電気・都市ガスの検針票を提出してもらい、それをもとにCO₂排出量や増減量(対前年度)を算定し、その量に応じて金銭やHOPES券(サービス券)を支給しました。

取組結果をみると、前年に比べ排出量を削減できた世帯は報告世帯の約 6 割であり、全体で約 20トンの削減効果がありました。

用語の解説(3)

「京都メカニズム、国内クレジット制度など」

日本は京都議定書に基づき、2008年から2012年までの温室効果ガス排出量を1990年比で6%削減することが必要です。

この6%削減約束を達成するため、努力してもなお目標達成に不足すると見込まれる分については、海外の排出削減量等を、自国の排出削減約束の達成に換算することができる仕組み「京都メカニズム」を活用し、目標達成することとしています。

6%削減約束を達成することに加え、我が国では中長期的に大幅な排出削減を目指しており、このため、様々な対策や施策が実施・検討されています。

国内の温室効果ガス排出削減等事業によるものとして、「国内クレジット制度(国内排出削減量認証制度)」や「オフセット・クレジット(J-VET)制度」があります。これらは、企業の省エネ設備導入等による温室効果ガスの削減量や、植林事業等による温室効果ガスの吸収量を対象とするものであり、「カーボン・オフセット」(削減できない排出量の全部又は一部を、他の場所で実施した削減事業等による削減量等を自主的に購入等により埋め合わせること)にも活用されています。

また、現在、国においては、大規模事業者に対して一定の削減量を義務づける「国内排出量取引制度」の創設が検討されています。

なお、東京都では都内大規模事業所を対象として、温室効果ガス排出量の削減義務制度を国に先立ち今年度からスタートしています。

協議会活動参加へのお誘い

温暖化は私たち「みんなの問題」。私たちとともに温暖化防止活動に取り組みましょう。協議会では、あなたの参加を待っています。

編集後記

第 10 号はいかがでしたか。協議会の情報交換の紙面作成のため、載せてほしい情報や建設的なご意見をお待ちしています。